

第2回 千代田区スポーツ振興基本計画策定委員会 議事録

- 日 時：令和7(2025)年9月8日(月) 18:00～19:50
- 会 場：千代田区役所 4階 601会議室
- 出席状況：出席委員9名
- 千代田区：事務局4名
- 議 題：
 - (1) 計画素案の検討について
 - (2) 計画の方向性について
 - (3) その他

(議事要旨)

1. 開 会
2. 議 題

※ ●：委員からの質疑 ➤：担当者回答

(1) 計画素案の検討について

〈事務局から説明〉

委員長) 施設が足りないという意見が常に出ておりますが、そのことに関しての何か取組や他の場所の活用等は検討しているか。

➤事務局) 千代田区は物理的に狭く、体育館やグラウンドを確保しにくい状況があり、従来は小平市に花小金井運動施設を設けたり、江東区の夢の島に少年野球場を設けたり、江戸川河川敷を少し借り上げてサッカー場を貸し出すといった形で区外に施設を確保してきた。ただやはりグラウンドは足りず、15歳以下の子どもたちで構成される少年少女団体に対しては、区外の施設を借りた場合には区内と同じくらいの金額で活動できるように補助金を支給する取組をしている。この取組は、もともとグラウンド等の屋外施設限定であったが、2年くらい前から体育館等の屋内施設でも対象となった。区が運営する施設を設けることは難しいが、既存の施設を子どもたちが利用した場合に補助する取組は今後も継続していきたい。

● 「けが」という言葉が、ひらがなとカタカナの両表記となっているため統一したほうがいいのではないか。

パラスポーツの定義の記載があったのはいいと思うが、「障害者のための特別なスポーツ」の「特別」は必要か。

19ページの「区主催事業」として「日曜青年教室（心身障害者水泳教室）」とあり「心身障害者」を用いているが、24ページ等の他のページでは「知的障害者」となっている。これも統

一したほうがいいのではないか。「精神障害者」と区別したと思われるが、今はあまり「心身障害者」という表現はしない。

25ページに「障害者スポーツに必要な取組」とあるが、アンケートを取った時に「障害者スポーツ」という言葉を用いたため「パラスポーツ」と統一せず「障害者スポーツ」を残したことか。

30ページに「しょうがいスポーツ」とあるが、「しょうがいスポーツ」とはどういうものかをどこかで記載する際には、「年齢にかかわらず高齢の方も」といった言葉を入れておくと、障害者に限らず幅広く「しょうがいスポーツ」というのだということがわかる。「しょうがい」をあえてひらがなにしているということは、この言葉をピックアップしたいと思われる。

►事務局) 承知した。

(2) 計画の方向性について

〈事務局から説明〉

●「する」「みる」「支える」「知る」を学校教育では大事にしているということが盛り込まれていることで、子どもたちを運動好きにし、運動習慣を身につけさせるためにはとてもいいと感じた。その上で、今後具体的に施策を展開する上で参考になればと思い提案する。我が番町小学校では夏季休暇の最終の1週間でラジオ体操を実施している。月曜日から土曜日までで、保護者も地域の子どもも本校の生徒も含めて延べ802人の参加があった。他地区の同様の取組に比べ非常に多い参加者があったのには4つの要因が考えられる。

1つ目は、最終日にお菓子を配ったことである。大きめのビニール袋に結構な量が入ったもので、毎日平均120人の参加が、最終日は150人であった。これは、インセンティブになるとと思われる。

2つ目は、来た時にスタンプを押してあげたことである。毎日来た子は景品がもらえる。スタンプラリーは、運動で楽しむばかりではなく、見える化された楽しみになると思われる。

3つ目は、親子で来る楽しみが得られたということである。朝の6時半から親子でやってきて、高学年の子の保護者は離れて見守っているが、家族で参加することに意味があるのではないかと思われる。

4つ目は、そのような行事を続け、伝統的に行っているということである。

そのあたりに、子どもたちが運動したくなり、続けようとするヒントがあるのでないだろうか。

委員長) 非常に参考になるご指摘であるが、それをどう落とし込んでいくかということになる。モチベーションをどのようにつくっていくかということと、やはり「伝統」があると思

う。ラジオ体操は行くものだというマインドがあるのでないか。それを小学生がそこで学びそこに定着し、親御さんも学んでいくということになる。伝統をどのように継承していくかを、必ず施策に入れていただきたい。

● 「3施策体系」で、基本目標3にだけパラスポーツの施策が入っていないのはなぜか。

基本目標1の施策1.2に「ニュースポーツ」も入れていただきたい。

►事務局) 基本目標3にパラスポーツという視点を入れたほうがいいのではないかということであるが、3.5「スポーツイベントの開催」の中に、パラスポーツ・アーバンスポーツ・マルチスポーツ等も包含した形で捉えていた。しかし、パラスポーツは計画の中で特に重要な観点になるため、記載方法は検討したい。

「ニュースポーツ」については、スポーツ推進委員の皆様にはニュースポーツの講習会等も実施していただきたい。ここの表現も工夫したい。

委員長) 先ほどの質問の「しょうがいスポーツ」についても、用語の解説も必要になってくるかもしれないが、うまく入れ込むことはできないか。

►事務局) 前回計画の中では「しょうがいスポーツ」を柱の1つとして基本目標に掲げていたが、今回は、直接「しょうがいスポーツ」という表現を引き継ぐような形での施策目標の組み立てはしていなかった。皆様からの意見を踏まえ、「しょうがいスポーツ」を改めて定義した上で、施策の中に盛り込むように検討する。

●用語は難しく、図で表すと把握しやすい。4ページの絵の中にもっといろいろなスポーツを盛り込むか、別に詳しい絵でどんどん示せば、わかりやすくインパクトがあり入ってきやすいのではないか。

►事務局) おそらく図で表現することでわかりやすくピタッとはまるようなものが多いと思うが、一方で複雑な説明が必要なものがあった場合は図で可視化することは難しいかもしれない。いただいた意見を参考に検討する。

●35ページの基本目標1の施策1.2に「マルチスポーツ」が入っているが、「マルチスポーツ」は50ページに「複数のスポーツを同時期に行うこと」を指すとあるため、施策1.2は「パラスポーツ、eスポーツ、アーバンスポーツ、ニュースポーツ等の体験機会の創出、そしてマルチスポーツの推奨」といった表現がいいのではないか。パラスポーツ、eスポーツ、アーバンスポーツ、ニュースポーツ等を同時期に行ったほうがいいということを言いたかったのではないか。

基本理念の「スポーツがつなぎ、スポーツで輝く、都心の絆 ちよだ」はとてもいいと思う。「スポーツがつなぐのだ」というところと、「スポーツで輝けるのだ」というところは、スポーツを続けてきた者としては、ずっと想ってきた言葉であり、スポーツというところにつなげていく言葉であると感じた。

●基本理念の「絆」という言葉は、深い意味に捉えられると感じる。区民のアンケートからは、一人で気軽にスポーツをしたいとかしているといった人が結構大勢いることが分かるが、そこに「絆」という言葉が来ると、誰かとつながらなければならぬのかとか、もっとガッツリ仲間になってやらなければならぬのかといった負のイメージを抱く人がいるかもしれない。そうであれば、「つなぐ」とか「ネットワーク」といった重みをあまり感じない言葉にしたほうが万民受けするのではないか。

「ちよだ」という言葉の響きは、都心であり日本の中心でありハイブランドであるイメージがあるため、わざわざ「都心」をつけなくてもいいのではないか。

「都心の絆」という表現は気になるため、何か工夫できないか。

委員長) さらに、伝統と未来が調和するということで、過去と未来の時間的つながりが表現できるといいのではないか。そういうニュアンスが入ると、新しく入ってきた方々もずっとおられる方々もつながれる画が見えてくる。伝統や過去・未来の様な時間的なつながりも含めて何をつないで何が輝くのか、がもう少し表現できるような言葉が基本理念の中に入ると良いのではないか。

●「ちよだ」をアルファベットと漢字で併記するのはどうか。

委員長) 何かいい案が出てくるといいのだが。テンポはいいと思う。

●全体を見た時に、「e スポーツ」が異質に感じる。基本目標には、「食事」「運動」「休養」「睡眠」が原則である「健康」が入っていない。「健康」を目指しているわけではないため、e スポーツを記載してもいいのかもしれないが、e スポーツをやっていたらスポーツに親しんでいることになるのだろうか。認知症の予防という点では、e スポーツが効果的であるとニュースでも報じていたが、幼稚園生や小学生に e スポーツでいいということは本当に正しいのかという疑問がある。e スポーツを他のスポーツと並列にしていいのだろうか。

委員長) 「健康」はターゲットにしていないのか。

➢事務局) 「スポーツに親しむことで充実した人生を送れるようになる」ということであるため、当然「健康」も概念として入っていると認識している。

●人とつながるという意味では e スポーツもあてはまっている。課題としては、e スポーツについては関心が高くなっていることが挙げられているが、ロジック的にはなぜ e スポーツが出てき

たのかわからない。

►事務局) eスポーツについては、生涯学習・スポーツ課の取組として、パラスポーツとeスポーツの体験会を毎年12月に開催している。しかし、そこで取り上げているeスポーツは、テレビゲーム的なものではなく、体を動かすとモニターに映っているアバターが動き競い合うことができるものや、暗幕の下でライトの光が動きジャンプしてよけたりするようなものなど、体を動かしながら楽しめるものである。一般の方がeスポーツに持つイメージとは少し違う形でのアプローチを行っている。その部分が見えるような記載方法が必要である。対象とする世代も、認知症予防ということで介護の福祉的観点からやるようなeスポーツもあれば、若者や子どもたちがネット上で遊ぶようなeスポーツもあり、その区分けは計画の中で記載したほうがいいと感じたため検討する。

●世間ではどうしてもテレビゲームのようなものをイメージしてしまうため、身体活動を伴うeスポーツについては、一言枕詞があるだけで違いがわかり、千代田らしさも出せると思う。

委員長) 最近では、eスポーツは対戦ゲームが取り沙汰されているが、千代田区としてはeスポーツをそのように捉えてはいないということがわかるような表記をしたほうがいいのではないか。

►事務局) 今現在、eスポーツの定義が非常に難しく、主体により定義が変わっててしまう。いただいたご意見を踏まえ、千代田区として、子どもの健全な育成を考え、どのように定義するかを検討する。

委員長) 千代田区が考えるeスポーツは、身体活動を伴うものと定義づけた上で、さらに各年代に応じた取り組みを紹介できればいいのではないか。

●50ページの用語解説のところで説明すればいいのではないか。

►事務局) 検討する。

●「学校」の定義は、幼稚園や小中高のどのあたりか。基本目標3の3.2「学校における運動量の十分な確保」とは何を指しているのか。体育の時間は時数で決まっているため、部活のことか。

基本目標4の4.1「部活動の地域連携」については、今特に中学校では地域移行をしようとしており、我が九段中等教育学校でも、4つの部活動はお願いしたいと考えている。指導者が全然見つからないという問題がある。都立高校の場合は教員の職務の中に部活動の顧問が本務として位置づけられており、学習指導要領上部活動はきちんと示されている。そのあたりの整合性も考えておいたほうがいいのではないか。

学校の施設を運動施設として考えた場合、都立高校は施設開放をしなければならないが、千代田区の施設開放はとてもやりにくい。高校は部活動がとても盛んなため、施設が空くのはテ

ストの1週間前だけである。一旦開放したらずっと開放し続けなければならず、開放する時に校舎内を通らなければならない場合には誰かが出てこなければならない。開放するためには、開放できるような施設や備品や要員がないと難しい。

私立にはeスポーツ部があるが、どちらかというと座ってやるゲームが主体である。eスポーツがそういうものであると知られているのは、マスコミによって勝てば何千万円の賞金があるよう商品化されているからだ。しかし、腕を振ってテニスをしたりバーチャルゴーグルを着けて実際にハードな運動をしたりするものもある。eスポーツがどういった位置づけになつていいのか、国の動きも踏まえて定義したほうがいいと思う。

プロスポーツとの関係では、九段中等教育学校と日比谷高校が合同練習をした時に、グレートベアーズというバレーボールのプロチームに来ていただき指導してもらい、その後親子バレーボール教室を開催した。また、今、プロスポーツではデータを活用しているが、どのようなことをしているのか情報の授業の中で教えてもらった。それらのデータは分析していくと体育の中でも用いることができ、それがスポーツにつながっていくといった、いろいろな広がりがあるようだ。そのあたりの位置づけや定義をしっかりと押さえておくことが大事である。

ここではスポーツに特化しており「健康」はもっと大きな意味合いのものであると思ったが、その辺の位置づけも明確にしておいたほうがいい。

►事務局) 「健康」に関しては保健福祉部では「健康千代田21」という総合計画があり、その中のスポーツの分野で生涯学習・スポーツ課も関与している。スポーツを通じてウェルビーイングを得るという意味では「健康」も重要である。

区立施設の開放については、九段中等教育学校以外の小中学校に関しては、コミュニティスクールという形で生涯学習・スポーツ課で担当している小学校とそれ以外の小学校があり、その他に区立中学校があり、それぞれ担当部署が違う。学校が使っていない時間帯に限り、地域の方々やスポーツ団体等に開放する活動を行っているところである。いろいろと動線や人の手配の課題もあるようだが、人の手配については委託事業者に依頼しているケースが結構ある。今後、施策をさらに落とし込んでいく中でご意見を反映させながら計画を練っていきたい。

●実は九段中等教育学校では開放しようとしたが、一旦開放してしまうと、逆に生徒が使えなくなってしまうと思い、それでは本末転倒になってしまうため、その点が難しかった。

►事務局) おそらく、高校と中学校と小学校ではだいぶ状況が違う。小学校でもクラブ活動はやってはいるが、夜間はやっていない。

委員長) 開放は、場所がない中でどのように資源を使っていくかということにつながっていくため、しっかりとそういった施設を使えるようにするにはどうしたらいいかということを、必ず現場となる学校の担当者にヒアリングし、互いが気持ちよく使えるようにしていっていただきたい。

4ページに、「健康」については第3期千代田区スポーツ振興基本計画に記載されているとある。

➢事務局) 確かに前期のスポーツ振興基本計画の中にある。

➢事務局) 4ページの記載は、前回計画のスポーツの定義を踏襲する内容である。前回の基本理念は「樂々いえスポ、元気にまちスポ いいね スポーツちよだ」であったため、「元気に」ということで「健康的なことを目指していこう」という部分も盛り込まれたのではないか。

委員長) ということは、今期も「健康」を入れるということか。

➢事務局) ある意味「スポーツで輝く」というところで「健康」も包含すると考えていたが、もう少し表に出すように検討する。

委員長) 次回までに、「健康」や、その他ご指摘のあったものを検討していただきたい。

● 4ページに記載のある定義を受けると、「千代田区の身体活動を伴う e スポーツは、遊びや楽しみを目的とした」という部分が強くなるのではないか。一方で、最後の「そのすべてを幅広く含むもの」という言葉を受けると、一般的なテレビゲームの大会等を含んでしまわないかという懸念がある。やはり区民にわかりやすく定義づけることが必要であると感じた。

委員長) ここに「すべてを」と記載することは、範囲を大きくすることになり、パラスポーツと同様 e スポーツをどう捉えているかという千代田区における定義をしっかりと記載したほうがいいのではないかというご意見である。

● 基本理念に「スポーツがつなぎ」とあるが、何をつなぐのか。まず人をつなぎ、時間という意味では健康寿命をつないでいき、それと同時に千代田区に住んでいるからこそ地域につながることができると思うと、その後の「スポーツで輝く」や「都心の絆」は曖昧でよくわからない。

e スポーツは、ゲームだとしてもとても頭を使い反射的にスイッチを押すということで、立派なスポーツの一部として捉えることができるのではないか。そのため「e スポーツ」と呼ぶのではないか。あまり千代田区だけが e スポーツをこのような定義で考えると、いろいろな人が外れていきもったいないと思う。

委員長) チェスもスポーツであり、そもそもスポーツ自体がいろいろと幅広いものであるために、なかなか難しい。

➢事務局) チェス等の頭脳スポーツやモータースポーツもあり、スポーツの定義は広く、必ずしも体だけではなく頭を動かすといった、人間のどこかの部位を動かすものではある。懸念されていることは、子どもたちに対して悪影響を与える中毒性等の部分であり、定義については慎重にすべきということであると思う。e スポーツの活用方法としては、高齢者の健康寿命の増進の他にもパラスポーツとの相性も比較的いいと言われており、車椅子でも楽しめるものであ

る。どういった活用ができるのかといったところから、また子どもたちへの影響を考慮しつつ、総合的に考えながら検討を進めていきたい。

委員長) さまざまな意見があるが、千代田区としてどう考えるかということは議論を重ね提示していただきたい。

●いろいろとスポーツを通して健康的に生活するためにどうするかということが一番のテーマであると思う。いかに健康的に最後を迎えるかということは、筋肉をある程度衰えさせず維持できる体を持つことがとても大切である。今介護をしている母親はそれがまったくないため、とても大変な状態である。これから自分が老年になっていくことを考えると、人とのつながりもスポーツを通してつながっていくと正しく終われると思うが、筋力の衰えは心配である。

自身は、富士見スポーツ文化クラブでビーチボールを使用したスポーツをやっている。今は小学生が中心となっているが、能力的に差がある者たちが一緒にスポーツをやることにも、ある意味共通のところがあるのではないかと思う。互いに勉強になることもある。障害があることなど関係なく、普通に自分の生活の中にあることとして捉え、区民一人ひとりが幸福感や充実感を持ち、これからどうやって生活していくかということに向き合えるような施策ができたらしいと思う。

委員長) 基本目標3の3.4「高齢者のスポーツの推進」のところに入ってくると思うが、現段階で高齢者のスポーツについてはどのような施策を進めているか。

►事務局) 高齢者福祉の観点からのものが多いが、生涯学習・スポーツ課とは別に在宅支援課という部署があり、そちらが主に社会福祉協議会等と一緒にフレイル予防の講座開催等の活動を行っている。現行計画にも記載しており、引き続き実施していくと考えている。

委員長) 自分で外に出て活動ができる段階でのフレイル予防は自身がしっかりとしているため問題ないが、介護の段階になると筋肉をどうやって維持していくかを家の中のちょっとした動きで行っていくことになる。そういう方々がアクセスして、何か手助けになるような活動は行っているのか。

►事務局) 生涯学習・スポーツ課では、直接的には行っていない。世代別に行うというよりは、ボッチャ等のユニバーサルスポーツをやる中で高齢者が参加するといった活動になっている。高齢者の日常的な生活のための健康維持としてのスポーツということでは、現状では「かがやき大学」のような高齢者施策として高齢者同士のサークルをつくりたり、高齢者活動センターにトレーニングジムを設けたりしている。外に行けない方が行けるようになるために日常的に家の中で何かできる環境があればいいのではないか、という視点も取り入れていきたいと思う。

委員長) それは高齢者だけに限ったことではなく、学校に行けない子どもたちや、時間がなくてなかなか外に出られない方など、各世代にいると思われる。そのような方々にとってのスポーツはどのようなものかということを入れてもいいと思う。「すべての人」というのであれば、皆が元気でコミュニケーション力が高いわけではないため、そうではない方々に寄り添えるようなスポーツとは何かということを考え施策にも入れていただきたい。

●在宅というよりは、ある程度年齢がいっても、まだ元気でいられる間にスポーツにも触れ、健康年齢を維持できるようなスポーツのあり方というもので、今議論していることが貢献できないだろうかと思った。

委員長) 普段されていることで、もう少しサポートしてほしいことや、施策として落とし込んでほしいことはないか。

●フレイル予防については「かがやき大学」でも社協で行っているようだが、千代田区で取り組んでいるものは、自分で足を運びその場に行かないとできない。外に出られない人に対して、訪問とまではいかなくともせめて発信することはできないか。千代田区はホームページも充実しており、家族の協力が必要ではあるが家の中でできるようになるといいと思う。

►事務局) 前計画でも、「日常生活の中の身体を動かす行為まで、そのすべてを幅広く含むもの」ということで、料理をする時にフライパンを持つのも運動であるということであった。そういうことも必要であり、一方で、個々に活動している点のスポーツがいずれは面になりつながっていき、コミュニティ的なものが出来上がり、健康寿命の増進につながっていくといった観点も大事なのではないか。どちらも重要であると思う。

委員長) 機会をつくり、何かご褒美を配ることで集まつてくる方々もあり、個人のスポーツであってもその中でコミュニティができるようなきっかけづくりや戦略があると思う。例えば、プールの場合、個人で来ていると思われるが、日時を決めてイベントを入れてはどうか。アンケートにも「イベントが少ない」「イベントがあったら参加したい」という意見があった。ちょっとしたきっかけがあると、自分から声をかけるのが難しい世の中になってきている中で、スポーツでワイワイしていると声をかけやすい。そして誰かとつながり、さらにつながっていく。区民体育大会においても、ただ競技を行うだけで帰ってしまうのではなく、子どもたちにつながりを持たせるとか、別の種目の人たちと一緒にして何かをやってみるとか、何かきっかけづくりやイベントができるといいと思う。アイデアを出していただき、施策に落とし込んでいただきたい。

●スポーツの位置づけははっきりさせておいたほうがいいと思う。どんどん広がっていってい

き、リハビリ分野まで入ってしまう。コロナ禍の時に、生徒が登校できないため家の中で運動ができるようにと、体育の教員が YouTube で課題をアップし体育の 1 つとして行っていた。そういういたものまで位置づけとして入れていくのかどうか、どこかで明確に線引きをしておかなければならない。スポーツ振興基本計画はどこまでを網羅するのかはっきりさせなければこの先難しくなるのではないか。

委員長) これから出てくるいろいろなものを実際に実行していく時に、どこまでできるのかということで、後でそぎ落としていくという作業になると思う。皆さんからいただいた有意義なご意見を参考にし、落とし込んだ後に説明していただきたい。

委員長) 会議の回数的に、次までにどうなるのか。

►事務局) 次回の委員会では、今回の第 1 章から第 3 章までに第 4 章以降も加えた形での素案を諮り、ご検討いただく予定である。

委員長) 「伝統」ということで、どうつないでいくかというところに千代田区のよさがあると思う。しかし、すでにある団体は、高齢化や新しい人が入ってこない等により衰退しているところもある。そういう問題に対してヒアリングや調査をしつつ、どのようにすればそれをつなげていくことができるのか考えていかなければならない。必要がなくなったためになくなっていくのはいいことであるが、重要な千代田の財産がなくなってしまいそうなことは、見捨てず調査し、次につながるような施策に落とし込んでいただきたい。

(3) その他

委員長) スポーツ行政全般に対して何かご意見はあるか。

●お茶の水小学校のプールが期間限定で開放されている。一般で利用すると、泳ぐ人にとっては秒針がグルグル回るペースクロックが重要であるが、乾電池を使わなくてはならず乾電池の消耗が激しい。故障していることも多い。新しいはずなのにうまく使えていない物があるため、長く使用することを考えると差し込み式の電源にしたほうがいいと思われるため改善していただきたい。

施設を開放する際、学校側と利用者側とですみ分けをしていると思うが、掃除の点でうまく連携できていないようだ。富士見小学校の場合、体育館の掃除を子どもたちはしていないらしく、誰かがやるわけでもない。利用者がごみを集めごみ箱に捨てるが、そのごみを運び出す人はおらず、モップは 1 年中変わらず動かすたびにすごい埃が出る状態である。誰がどのように綺麗に管理するのかを確認していただきたい。

お茶の水小学校に限らず、おそらく小学校の児童は夏休みの間使用せず、掃除もしていないと思う。お茶の水小学校は、新しいにもかかわらず、もう床にカビが生えてきている。毎日掃除していればそこまでカビが生えることはない。誰が掃除するかが決まっていればきちんとやるかもしれないが、気づいた人がやるということではなかなか綺麗に維持することはできない。そういうところにも関心を寄せていただくと、利用者も気持ちよく利用でき、施設としても長く綺麗に使えると思う。どこの管轄かはわからないがよろしくお願ひする。

►事務局) お茶の水小学校はコミュニティスクールではなく、子ども施設課の所管となるため、今のご意見は伝え、何とか対応できないか改善の申し入れをする。

富士見小学校はコミュニティスクールということで、体育館の受付業務は生涯学習・スポーツ課でやっているが、掃除については確認してみないとわからない。モップは少し前に購入したと思う。ごみの廃棄については、現状どうなっているのか、学校と区の委託業者と利用者との間でどういう形で取り決めてやっていくのかを確認する。

3. 事務連絡

今後の予定について、事務局から説明

4. 閉会

委員長) 第2回千代田区スポーツ振興基本計画策定委員会を閉会する。皆さんありがとうございました。